

経営比較分析表（平成29年度決算）

福島県南相馬市 南相馬市立総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	16	-	ド透析 未 訓練	救 臨 災 輸
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
61,452	21,321	非該当	7 : 1	

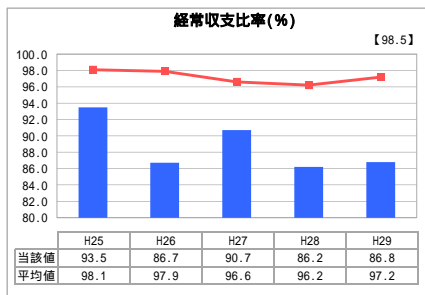
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
230	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	230
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
230	-	230

グラフ凡例
 当該病院値(当該値)
 - 類似病院平均値(平均値)
 【】平成29年度全国平均

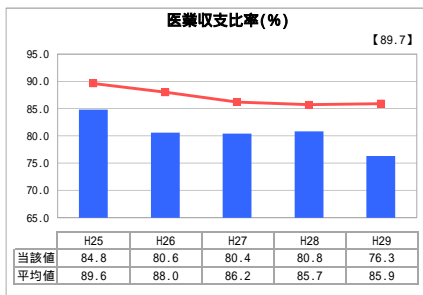
1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン(放射線)診療

2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輸...病院群輪番制病院

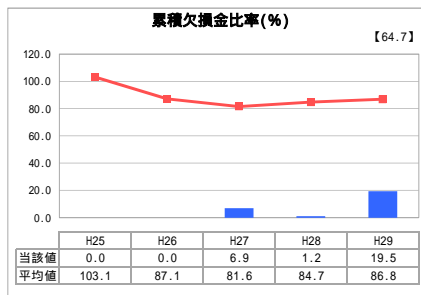
1. 経営の健全性・効率性



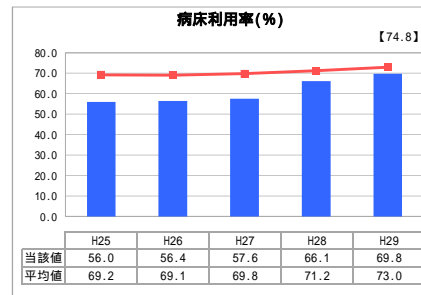
「経常損益」



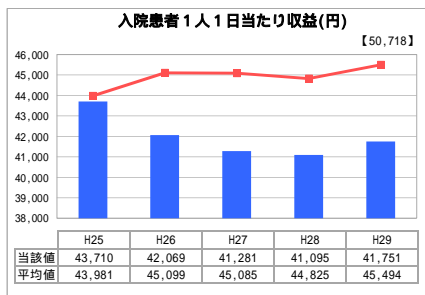
「医業損益」



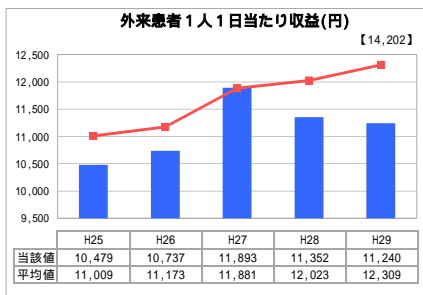
「累積欠損」



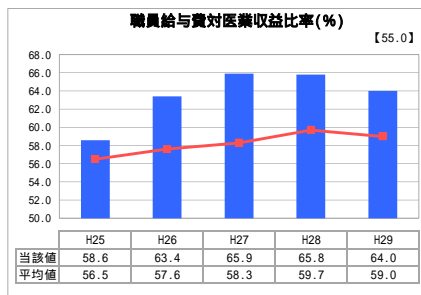
「施設の効率性」



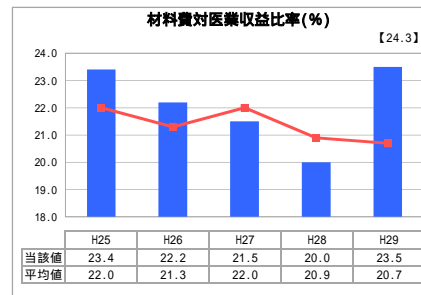
「収益の効率性」



「収益の効率性」

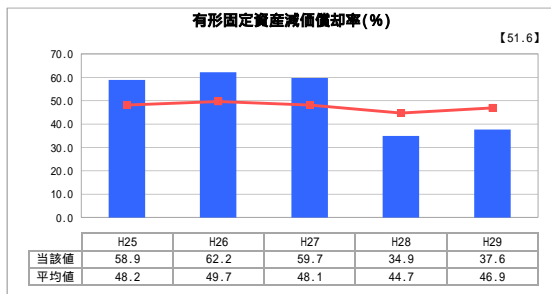


「費用の効率性」

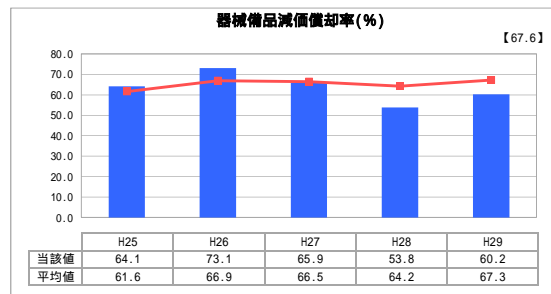


「費用の効率性」

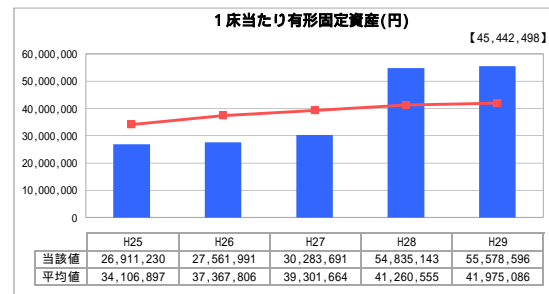
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

地域において担っている役割

本院は、原子力災害拠点病院及び地域災害拠点病院として指定を受け、相双医療圏の中核病院として二次救急医療を担っている。また、地域内の既存医療機関で受入ができない透析患者への対応のため、平成30年3月から新たに透析医療の提供を開始している。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成23年度の震災以降、稼働病床数を150床に制限してきたことにより病床利用率が60%未満の状態が続いていたが、段階的に稼働病床数を増やし、平成29年2月には震災前の230床に戻したことから、病床利用率は69.8%まで回復してきている。脳卒中センター建設に伴い、全病床230床を看護配置10:1にて運営すべく、看護職員を大量に採用したため収支が悪化したことが、今後は病床の稼働率を上げていくことで、収支均衡が図られる見込みである。

2. 老朽化の状況について

本院の本館は、平成4年建築から25年経過し老朽化が進んでおり、設計等も古く、導線等、使い勝手が悪いことなどもあり、近年中に大規模改修工事を行う予定である。

平成28年度に建設した脳卒中センターには、脳神経外科、救急科、整形外科、リハビリテーション科等が入っており、CT、MRI、アンギオ等を整備したことにより、平成28年度から1床あたり有形固定資産が大幅に増加している。

さらに、平成29年度においても、院内保育所の建設や透析室の整備等を行ったことにより、1床当たりの有形固定資産がさらに増加している。

全体総括

脳卒中センター建設に伴い、人員と設備に投資を行ってきたこと、特に初期研修医と看護師については将来確実に不足すると考えられる地域医療資源で、積極的な採用活動と定着に向けた福利厚生充実の充実を力を入れ、結果として人員採用計画は満たすことができた。また、減価償却費の増加は脳卒中センター建設費及びそれに伴う医療機器購入によるものである。医療は人員整備と設備整備をしてからでないと患者を受け入れる許可が得られないため、投資としてこれらの費用が先行することはやむを得ないが、今後は先行投資された資源を有効に活用し市民に還元する活動に注力する。ただし老朽化対策も行っていかねばならないという課題がある。

「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。